

令和7年度 市民憲章推進協議会 いただいた御意見

協議会開催日：令和7年5月1日（木）

参加者：協議会委員（15名）、オブザーバー（2名）

・実践目標3について、SNS等のデジタル化の進歩により、対面で接する機会が少なくなっていることが、地域のつながりが希薄になっている一因だと考えられます。対面で接することで、他者を理解し合い、多様な人との交流やつながりが広がると思います。

・実践目標3について、災害を想定し、3日以上食料の備蓄をすることは、震災直後は意識が高くなりますが、年間を通して意識付けができないこともあるので、市民一人一人が日頃から備蓄について意識することが重要だと思います。また、台風の直撃が想定される時、公共交通機関では計画運休されるように、難しいかもしれないが、企業の活動を休止するなど、帰宅困難者対策を考えることも重要だと思います。

・実践目標4について、伝統文化が後継者不足となっている状況ですが、学生ボランティアのおかげで継続できている地域の伝統行事もあります。年間を通して学生ボランティアと関わりを持つことで、伝統文化の継承につながると思います。

・実践目標5について、外国人観光客向けにマナー啓発など、啓発活動が実施されていますが、マナーを認識されていない外国人観光客も多いように思います。京都観光モラルを外国人観光客にも知っていただくことが重要だと思います。

・実践目標4について、伝統文化を大切に守り伝えていくために、文化をつなぎ、守っていく担い手の方々の現場が厳しい状況である、という課題を情報発信することも大事だと思います。

・実践目標5について、働く方々の現場でも、外国籍の方、あるいは外国から来た方が増えていますが、異文化に触れ、様々な国の文化の理解を深めていくために、そういった方々に対して、暮らしの中で、どのように異文化の理解を深められるかという広報・啓発に力を入れる必要があると思いました。

・実践目標3について、地域の行事である地蔵盆は、町内会に加入される方が減られ、実施できない地域もあるため、解決策を考えていく必要があると思いました。市民が参加できる地域の行事やイベントが増えることで、市民憲章が広がっていくと思います。

・市民憲章の推進テーマや実践目標について、多くの市民に知っていただく必要があると思います。元々市民憲章を実践していた方は、継続して実践し、市民憲章を知らない人も巻き込んで、市民憲章の輪を広げていくことが大切だと思います。

・防災は日頃から注意をしておりましたが、防火対策については、火災が増えていることに改めて気が付きました。火災が増加していることについて、季節ごとの啓発や警告が必要だと改めて感じます。

・実践目標5について、民泊施設の周辺で、外国の方が多く印象があるため、観光客向けのマナー啓発は、交通機関だけでなく、民泊施設やまちなかなど、目に付くところでの啓発が必要だと感じました。

・実践目標3について、京都在住の外国人について、オーバーツーリズムの影響で、観光客と住んでいる方との区別がつかない方も多く、外国人だからというだけで、市民の方は、不安を感じたり、ネガティブに思われる方もおられるため、京都在住の外国人についても記載があった方が良かったかと思いました。

・実践目標2について、日頃からごみや食品ロスを出さないことを地域全体に広めることを意識しています。外国人観光客にもごみを出さない意識を持ってもらうことが重要だと思います。

・実践目標5について、京都の文化を守っていくためにも、観光課題対策として、外国人観光客に対して、更なるマナー啓発が必要だと思います。

・実践目標3について、地域の行事が減っているため、ボランティアとして参加できる活動が減っているように感じます。一方で、ボランティアに参加すると「助かった」という地域からの声も多いため、ボランティアに参加できる地域の行事が周知されれば、地域、ボランティアに参加する者、双方にメリットがあると思いました。

・実践目標1について、放置自転車の数が減り、道が通りやすくなったことを日頃から実感しており、市民憲章の効果を感じています。

・実践目標2、3について、ごみの収集量が減ったことは良い点ですが、火災件数が増えていることが気になっており、日頃から気を付ける必要があると思いました。

・実践目標5について、インバウンドの影響で、市バスの車内が混雑していて降りられないことがあり困っているという声も聞くので、改善されれば良いと思っています。

・実践目標3について、地域の自治会における課題と同様に、学校ごとに差はありますが、PTAの加入率が低下していることが昨今課題になっています。PTAの活動をしていただく中で、様々なつながりの中で活動していくことの大切さをより実感いただくこともあります。地域のつながりが希薄化している昨今だからこそ、地域のつながりや交流を念頭に置きながら、今後の活動につなげていきたいと思っています。

・実践目標4について、「京都再発見帖」や「文化芸術授業（ようこそアーティスト）」のように、今後も子どもたちが世界遺産や伝統文化に触れられる機会があれば良いと思います。

・京都の次代を担っていくのは子どもたちなので、市民憲章について、中学校の授業の中でも子どもたちに紹介していけるのではないかと思います。